

保留にしていた審議事項

	項目	市の考え方
1	基本計画作成シートで示した「SDGs目標」の扱いについて	<p>「SDGsの17の目標」と「基本計画【各論】の各施策」との関係を示すため整理したのですが、「チェックしきれない」、「必要ない」といったご意見を総合計画審議会委員からいただいています。</p> <p>ご意見を踏まえ、「基本計画【各論】の各施策」で関係を示すことはせず、基本計画【総論】の「3計画推進の基本的な考え方」において、SDGsの視点を意識しながら各施策の展開を図ることを明記します。</p> <p>なお、総合計画においては、各施策との関係は示しませんが、別途、整理することについて、今後検討を行っていきます。</p>
2	基本計画作成シートで示した「エイジフレンドリーシティ」の扱いについて	<p>エイジフレンドリーシティ宝塚行動計画に掲げる8つの分野との関係を示すため整理したのですが、「エイジフレンドリー」についても上記同様のご意見をいただいています。ご意見を踏まえ、「基本計画【各論】の各施策」で関係を示すことはせず、基本計画【総論】の「重点方針〔3〕」において、エイジフレンドリーシティの取組をさらに推進することを明記します。</p>
3	市民憲章等について	<p>市民憲章は、市民団体等で構成する制定委員会が作成した原案を市議会の議決を経て、制定、公布したもので、都市像や、市民生活の規範などを示すものです。また、都市宣言は、市の考えや姿勢を内外に表明するものです。</p> <p>市民憲章も都市宣言も、期間を定めない、いつの時代であっても変わらない普遍的な理念と考えています。それに対して、総合計画は、10年ごとのまちづくりの方向性を示すものになります。</p> <p>付属資料への掲載等については、ページ数を抑えるため、掲載しないことも選択肢の一つと考えています。</p>

※市民憲章や都市宣言の内容は裏面参照。

○市民憲章（昭和 44 年 4 月 1 日）

宝塚市は、六甲長尾連山の緑と、武庫川の清流にはぐくまれた希望と伝統のまちです。

わたくしたちは、この恵まれた宝塚の市民であることに誇りをもち、自然と調和する清らかで明るいまちをつくるために、市民憲章をさだめます。

わたくしたち宝塚市民は、

- 1 お互いに理解しあい、助けあい、訪れる人たちを親切に迎えましょう。
- 2 自分の行動に責任をもち、きまりをよく守り、人に迷惑をかけないようにしましょう。
- 3 いつも健康でほほえみをたたえ、働くことの喜びと誇りをもちましょう。
- 4 教養を深め、視野をひろくして、高い文化をきずきましょう。
- 5 青少年の声をよくきき、伸びて行くさわやかな力を育てましょう。

○安全都市宣言（昭和 37 年 6 月 28 日）

わが宝塚市は、観光文化都市として、いまや大きく発展の途上にある。

しかし、この発展の陰には、交通事故や不慮の災害のため不幸にもとおとい生命を失い、障害の身となつた市民も少なくない。

本市の現状としては、市勢の伸展と相まって交通量も著しく増大し、とくに最近の山地開発による大型車輛の増加は、市民を交通事故の危険にさらしている。

また一方次第に増加の傾向にある工場、作業所の職場災害もゆるがせにできないものがある。

こういつた交通、災害その他火災、公害などの都市災害のほか市民の安全と福祉をはかる総合対策の樹立が必要とされるところである。

そこで、わが宝塚市は、市内のあらゆる組織を結集し七万市民の安全と平和を市民ひとりひとりがお互いに守るため市民の総力をあげての運動を強力に推進し、理想的な明るい住みよい町にするため、ここに宝塚市を「安全都市」とすることを宣言する。

○非核平和都市宣言（平成元年 3 月 7 日）

青くすみきった空、清らかな武庫川の流れ、緑あふれる六甲・長尾の山々……。この素晴らしい自然と明るくおだやかな暮らしは宝塚市民すべての願いです。

このような私たちの願いに反し、世界では依然として、人類同士の悲しむべき争いが絶えず、しかも地球上の全生命を滅ぼすことのできる核兵器が蓄積されてきました。

しかし、人類の平和への切実な願いが全世界に高まり、大きなうねりとなって、ようやく戦略核兵器の縮小や、各地域の紛争解決への明るい兆しが見えようとしています。

私たちは、このようなときにこそ、戦争を、そして核兵器をなくし、世界の恒久平和を強く願わずにはいられません。

ここに、宝塚市は憲法の平和精神に基づき、恐るべき核兵器の廃絶を願い、永遠の平和社会を築くことを誓い、「非核平和都市」とすることを宣言します。

○男女共同参画都市宣言（平成6年10月21日）

六甲、長尾両山系の緑と、市域の中央を流れる武庫川に象徴される、豊かな自然に恵まれた美しいまち宝塚。宝塚市では、第三次総合計画において、「人間性の尊重」を基本とした心豊かなまちづくりを進めるため、将来の都市像を「水と緑とふれあいのまち宝塚」と定め、自然と心の豊かな緑住文化都市の想像を目指して、様々な施策に取り組んでいます。この中において、女性関連施策についても重要な課題として取り上げ、鋭意取り組みを進めているところです。

社会の様々な分野に女性と男性がともに参画する機会が確保され、全ての人が個人として、自分らしく生き生きと豊かな充実した生活を送ることができるとともに、男女がともに責任を分かち合う、男女共同参画社会の実現にむけてのとり組みが必要です。このため、宝塚市では、総理府の「男女共同参画宣言都市奨励事業」の趣旨に賛同し、「男女共同参画宣言都市」として次の取り組みを進めます。

一、男女共同参画社会実現のための教育・啓発を推進するため、学校・家庭・地域・職場などにおいて、男女平等教育を推進します。また、「男は仕事、女は家事・育児」といった性別による固定的な役割分担意識の解消に努めるとともに、男女平等の観点に立った、性についての認識の浸透を図ります。

一、男女共同の社会参画を促進するため、政策・方針決定の場への女性の参画を促進します。また、家庭生活・地域活動・職場生活における男女の共同参画を推進するとともに、国際交流活動や生涯学習活動への参画を促進し、女性の自主的活動に対する支援と連携を促進します。

一、女性の経済的自立の促進と労働条件の整備のため、女性の就労環境の整備・充実を図ります。また、就労及び起業のための情報・相談事業や就業能力開発・向上のための学習事業の充実を努めます。

一、女性の健康の保持増進と母性の保護のため、母子保健を充実させるとともに、医療・保健サービスや心身の健康のための相談機能の充実を努めます。

一、長い生涯をいきいきと暮らすことができるよう、高齢女性の生活安定・福祉の充実を努めます。また、障害を持つ女性の自立と社会参加を促進するとともに、育児・介護の支援施策の充実を努めます。

一、男女共同参画社会の実現に向けて、総理府男女共同参画室をはじめとする国の機関、及び他の地方公共団体、企業との連携と協力に努めます。

一、男女共同参画社会の実現に向けて、総合的な推進を図るため、女性問題解決のための基本的な計画を策定します。

また、男女平等推進委員会を設置するとともに、女性センターの運営・事業や庁内推進体制の充実を図ります。

一、来年、中国の北京において開催される第四回世界女性会議をはじめとする世界的な動きを視野にいれ、男女共同参画社会の実現をめざします。

○人権尊重都市宣言（平成8年3月5日）

すべての人びとの基本的な人権が尊重され、平和で、自由で、平等な社会で、幸せに暮らせることは人類共通の願いです。しかし、私たちの身のまわりには、今なお、さまざまな差別や人権侵害があとをたちません。人が人として互いに尊び合い、すべての人びとの人権が保障される、明るく住みよい地域社会を築きあげるために、より積極的な取り組みが求められています。人権は、市民一人ひとりの不断の努力によって守り、築かれなければなりません。水と緑とふれあい・共生のまちをめざす、私たちのまち宝塚市は、ここに思いを新たにして、本市を「人権尊重都市」とすることを宣言します。

○環境都市宣言（平成 8 年 9 月 10 日）

私たちの地球は、バランスのとれた生き物のようなもので、人類のみならず、すべてのいのちの源であり、地球の未来は、その恵みによって生きている人間の知恵と行動に大きくゆだねられています。

私たちのまち宝塚は、六甲、北摂の山なみ、武庫川の流れに象徴される豊かな自然や歴史的、文化的な資源に恵まれた美しいまちです。私たちは、このすばらしい環境を、将来の世代に引き継いでいかなければなりません。

私たちは、宝塚を訪れる人たちとともに、このかけがえのない環境を大切にしながら、今までの暮らしや、いとなみを見直し、一人ひとりの小さな行動を積み重ね、健全で恵み豊かな環境をともにはぐくみ、大きな「宝の塚」を築きあげて「環境都市・宝塚」とすることを、ここに宣言します。

- 一、私たちは、水と緑きらめく、魅力あふれるまちをつくります。
- 一、私たちは、人と自然や生き物がともに生きていくまちをつくります。
- 一、私たちは、ものを大切にし、ごみの減量やエネルギーなどの節約、リサイクルの推進に努めます。

○健康都市宣言（平成 10 年 9 月 8 日）

すこやかなからだと豊かなこころと
うるおいに満ちた社会が
この自然と音楽の彩りにあふれた
美しいまちに住む
私たち市民の幸せと歓びを
つくります

市民一人ひとりが
みずからの健康づくりにつとめ
ともに手をつないで
この宝塚を未来に向け
あたたかい「こころのまち」に
育てます

- 人それぞれに応じた健康をめざし、無理をせず楽しみながらとり組みましょう。
- 健康を支える栄養、運動、休養のほどよいバランスに気を配りましょう。
- 笑いにあふれる家庭やコミュニティでの交流を大切にし、健康づくりの輪を広げましょう。